

平成30年8月9日

芦屋市議会議長 畑中 俊彦 様

建設公営企業常任委員長 田原 俊彦

## 建設公営企業常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

### 記

- 1 日 程 平成30年8月6日（月）～8月7日（火）
- 2 視察先及び  
視察項目 自転車市民共同利用システムについて（富山県富山市）  
無電柱化の取り組みについて（石川県金沢市）
- 3 参加者 建設公営企業常任委員会  
委員長 田原 俊彦  
副委員長 中島 健一  
委員 いとう まい、寺前 尊文、山田 みち子、  
ひろせ 久美子、畑中 俊彦  
随 行 市議会事務局議事調査課 亀岡 学
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以 上

平成 30 年度 建設公営企業常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	平成 30 年 8 月 6 日 (月) 13 時 30 分 ～ 15 時 00 分
視 察 先	富山県富山市議会
視 察 内 容	自転車市民共同利用システムについて
視 察 目 的 (視察先選定理由)	富山市は環境モデル都市として、また公共交通を軸としたコンパクトな街づくりに取り組んでおられる。H22 年度から始まった自転車市民共同利用により、CO2 の削減や中心市街地の回遊性を強化しており、本市としても環境面、市街地活性化の視点から視察先として選定した。
調 査 概 要	<p>富山市の自転車市民共同利用システムとは、市内に設置された「ステーション」から自由に自転車を利用し、任意のステーションにいつでも自転車を返却することができる新しいレンタサイクルのこと。貸し切りのレンタルではなく、共同利用することで、短時間、短距離の利用を想定。新たな交通サービスとして注目を集めている。また今回の視察では、市役所に設置しているステーションの現地視察も行った。</p> <p>(1) 導入までの経緯 市長からの導入指示がきっかけで、コンパクトシティとして環境面に優れ、中心市街地の活性化につながる新たな自転車市民共同利用を検討。フランスですでに実績のある民間事業者と協働して民設民営の仕組みで導入に至った。</p> <p>(2) 現状の事業概要 H22 年度から民間事業者が事業を実施。初期投資は市が負担しており、事業者は利用料金と広告収入をもとに運営している。 現在市内に 23 ヶ所のステーションがあり、24 時間 365 日利用可能。一日 200 円から利用でき、利用実績も毎年増加しており、昨年度は一日平均 187 回。市民の間に浸透していることがわかる。</p> <p>(3) 導入の効果と課題 自転車のデザイン性にもこだわっていたため都市景観との調和も実現。自転車やステーションのターミナルなどでは富山市のイメージカラーのステアリングブルーを採用している。環境面では CO2 削減の効果も出ている。課題としては、ステーションの増設検討や利用者の増加に伴い、登録・利用システムの見直しと改善を検討している。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	<p>導入から 8 年を経て、利用者の増加、CO2 削減など着実な実績を積み上げており、事業者と行政がそれぞれの役割で進めてきた事業であり、高く評価したいと考えた。</p> <p>本市でも、環境面や自動車による交通渋滞、市街地活性化なども考えると十分検討課題とすべきと考えた。</p>

平成 30 年度 建設公営企業常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	平成 30 年 8 月 7 日 (火) 9 時 30 分 ~ 12 時 00 分
視 察 先	石川県金沢市議会
視 察 内 容	無電柱化の取り組みについて
視 察 目 的 (視察先選定理由)	金沢市は、H21 年度から金沢方式無電柱化推進実施計画を策定し、地中化方式以外の手法などを用いて、無電柱化に取り組んでおられる。本市でも、現在無電柱化推進計画を策定中であり、今後の導入手法やコスト面でも研究のため視察先として選定した。
調 査 概 要	<p>金沢市は、半世紀以上にわたり歴史的建造物が数多く存在し、景観や住環境に対する市民の意識が強い。景観に対する取り組みは昭和 39 年にさかのぼる。こうした背景もあり、無電柱化に取り組んでこられた。また今回の視察では、主計町、ひがし茶屋街の現地視察を行った。</p> <p>(1) 導入までの経緯 早い段階から美しい景観の保持に対する取り組みもあり、同時に狭い市道が多く、現状の電柱電線が歩行空間を狭め、災害時の場合通行の遮断の危険性もあり、推進計画を策定し、計画的に整備することになった。</p> <p>(2) 現状の事業概要 21 年度から無電柱化推進実施計画を策定し、整備路線を点数評価で 3 つに分類。路線別に優先度を決定している。また原則、完全地中化方式が多いものの、茶屋街などのような歴史的建造物保存区域では軒下配線なども活用しながらその地域特性にあった整備方針を組んでいる。</p> <p>(3) 導入の効果と課題 観光客数の増加（特に外国人観光客の急増）は、新幹線開業の影響もあったものの無電柱化による街並み整備も大きな要因と分析している。また整備を進めることによって防災面での効果もある。一方、今後の課題としては、整備のためのコストと地域での合意形成には時間を要するという点と考えられる。</p>
所 感 (意見・感想・今後の課題等)	<p>金沢市のような歴史的な街並みと本市の街並みでは比較が難しいものの、地域住民の景観や住環境への意識が高いという点では共通している。視察では、整備を進める上で、地域住民との合意形成が重要であること、また電線事業者などの関係機関との調整も時間が要することが明らかになった。</p> <p>今後、本市でも整備を進めていく上では、無電柱化に関する市民への意識啓発の重要性と早い段階から関係機関との連携を図ることなど、また無電柱化のための様々な手法を用いた取り組みは今後の参考となった。</p>

視察の様子（平成30年度 建設公営企業常任委員会）

視 察 先 ①

8 月 6 日  
富 山 県 富 山 市



富山市環境部環境政策課の職員の方にご説明いただきました。



実際に共同利用されている自転車（アヴィレ）に試乗（富山市役所前のステーションにて）

視 察 先 ②

8 月 7 日  
石 川 県 金 沢 市



金沢市土木局道路建設課無電柱化推進室の職員の方にご説明いただきました。



景観に配慮し、地上機器を視界に入らない場所に設置（主計町にて）

※この「視察の様子」のページは市議会事務局職員が作成しています。